

高専通信

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN), TOMAKOMAI COLLEGE



新入生へ贈る言葉

各副校長ご挨拶

新留学生紹介

卒業生・修了生へ贈る言葉

令和6年度進路状況

TOPICS

2025年6月発行

苫小牧工業高等専門学校

〒059-1275 苫小牧市字錦岡443 苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係
[URL] <https://www.tomakomai-ct.ac.jp> [MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

新 入 生 へ 贈 る 言 葉

新入生の皆さん、苫小牧工業高等専門学校にようこそいらっしゃいました。今年度は、創造工学科入学生二百十六名、外国人留学生三名、創造工学専攻入学生二十二名、計二百四十一名を迎えることができました。教職員一同、そして本校をご支援くださる方々と共に皆さんを心より歓迎いたします。ご入学、誠におめでとうございます。本校からは秀麗な樽前山の姿がいつも目に入ってきます。皆さんも朝に夕に目にする樽前山を是非、青春の風景とされてください。

保護者の方々、ご家族の皆様方におかれましては、本日入学式をお迎えになられご子弟の姿を誇らしく見ていらっしゃると思います。ご入学を心よりお慶び申し上げます。



さて、十五才という感性豊かな若い年齢でエンジニア専門教育を行う工業高専の道を選んできた皆さんに私は心から感謝し、期待をしています。我々教職員一同は、誠心誠意、一生懸命、皆さんの学びを導いて参りますので安心して進んでください。分からないことや心配なことがあれば、一人で悩まずに担任や相談室の先生、カウンセラー、先輩方、教職員に遠慮なく相談されてください。

工業高等専門学校、いわゆる高専は実践的、創造的技術者を養成することを目的とした五年一貫の高等教育機関です。本科では大学卒業に匹敵する高いレベルの専門教育を教育・研究者である教員から受けます。本科を卒業すると準学士の称号を、さらに二年間の専攻科を修了すると大学卒業と同じく学士の学位を授与されます。

苫小牧高専は一九六四年四月に設置され、昨年開校六十年を迎えました。国立高専は全国で五十一校あり全学生数は五万人以上ありますが、全国の高校生数と比べると一・四%しかありません。高専卒業生に対しては産業界からは非常に高い評価があり、それ故、高専生は国、社会、そして地域から大きな期待をされています。まさに、皆さんは国・地域の宝なのです。その自覚をもって常日頃から自主・自律的に勉学に励み、節度をわきまえた日常生活を送っていただきたいと願います。

日本は急速に少子高齢化が進んでいると同時にコロナ禍以降、働き方も大きく変わっています。産業界は専門知識だけでなく、問題解決能力を持つ優秀なDX人材を求めています。高専の出口は社会に直結していますが、我々もその要請に答えられる人材育成を行うべく、グローバル人材育成事業やフロンティアコースなどを新たに設け教育のアップデートを行っているところです。しかしながら、一番重要なことは技術を通じて人々の暮らしを豊かにして世界人類の幸せと地球環境保全に貢献するということです。これを礎として学んで欲しいと思います。

ところで、高校生は生徒と呼ばれますが、高専生は学生と呼ばれます。これは高専が大学と同じ高等教育機関に分類されるからです。学生とは自主的・自律的に学ぶ者

を指します。高専生は自ら積極的に学ぶ姿勢と自主的に行動することが求められます。例えば、高専には普通高校の様な細かな校則はありません。これは大学と同じです。今から一四九年前に北大の前身、札幌農学校の副校長に招聘されたクラーク博士は、それまでの学校の規則を撤廃し、「一言「Be Gentleman（紳士たれ）」と言ったそうです。細かい校則は無くとも自己の良心に従い自ら律して行動してください。保護者の方々におかれましてはこの点を見守っていただければ幸いです。

若い時は楽しみや充実感ばかりではなく、いろいろな悩みもあり苦しみもあるでしょう。アンジェラ・アキ「手紙（拝啓十五の君へ）」を聞き直してみました。皆さんは私の十五の時よりもよっぽど将来を考えて目的意識をもち立派だと思っています。たとえ無駄だと思っても人生のすべてに意味があるから恐れずにどうかあなたたちの夢を育ててください。明るく楽しく前向きにチャレンジしてください。それが自己実現につながっていくはずです。私は苫小牧西町、今の新富町で生まれ育ちました。十五の自分分は五十年後の今の姿は全く想像できません。今を一生懸命生きていけば明日はあるのです。私の好きな言葉、「念ずれば花開く」を贈ります。

苫小牧高専の教育理念は、「豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。」です。教職員一同、皆さんのことをいつも気にかけて、学びをしっかりとサポートしていきます。しかし、一番大切なのは皆さん自身の学ぶ姿勢です。諦めずに最後まで乗り越えていこうとする努力です。皆さんが楽しく充実した学生生活を送られて、今日の仲間達と一緒に全員揃って卒業・修了の日を迎えられることを祈念して新入生に贈る言葉といたします。

令和七年四月八日

苫小牧工業高等専門学校 第十二代校長 長野克則

在校生からの メッセージ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。寮や通学、90分授業など新たな環境に慣れてきましたか？入学してみ、高専にどんなイメージを持ちましたか？私は、同級生や学内ですれ違う学生、先生方の強烈な個性に衝撃を受けた記憶があります。



1年生は、高専生活残り4年間どの分野を専門に勉強するかを決める大切な1年間です。創造工学の授業や身近な先輩の話など5系の情報をたくさん集めて、周りに流されることがなく1番関心がある・楽しそうと思える系を見つけてほしいです。先輩方は大変だと文句を言いながらも自分が選んだ系が大好きなので、自身が所属している系をおすすめしてくれると思います。

勉強はもちろんですが、部活動や学校行事、学外での活動など、興味があること新しいことに挑戦し続ける5年間にしてみてください。優しい先輩、かわいい後輩、頼れる同級生との貴重な経験や素敵な思い出ができればと思います。皆さんが充実した5年間を送れるよう応援しています。

5年1組 上野愛結

都市・環境系では橋梁や道路、ダムなど皆さんの生活に欠かせない構造物の設計・建設や災害の対策など、技術者になるため高度な専門知識を学びます。三力と呼ばれる構造力学・地盤工学・水理学をはじめとする座学はもちろん、測量機器を用いて校内の地図を作成する測量学実習や、コンクリートを打設し破壊する強度試験や、木材を用いて橋を作り強度を競い合うブリッジコンテストを行う工学実験など実践的な学習もあります。



生活面では、多種多様な部活動や高専祭などの大きなイベントがたくさんあります。特に部活動は、先生ではなく学生が主体となって活動するため自ら行動する力を養うことができ、形に縛られることなく活動することができます。さらに上級学年になると、インターンシップや研修旅行にて実際に現場を見学し、普段見ることができないものが見ることが出来ます。

ぜひ、自分のやりたいことをやり尽くして、楽しく充実した高専生活を一緒に謳歌しましょう！

4年2組 大木直哉

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。授業や部活に不安がある方もいれば、楽しみな方もいると思います。この1年は2年生からの専門系選択に関わる大事な年なので、後悔しないように全力で取り組みましょう。



応用化学・生物系では食品や衛生、材料について、座学と実験を通して学ぶことができます。実験はレポートが大変だというイメージがあると思います。実際、私も慣れるまでは辛く大変だと感じることも多くありましたが、レポート作成を通して文章を書く力をつけることができたり、内容を整理する力をつけることができるので、自分の将来に役立つと感じています。化学に興味がある方、白衣を着て実験することに憧れがある方はぜひ応用化学・生物系を検討してみてください。

高専が最後の学生生活になる方も多いと思います。その中で人間関係、勉強などうまくいかないことがたくさんあると思いますが、その経験は決して無駄にはなりません。いつでも自分に自信をもって、いろいろなことに挑戦してみてください！

5年3組 清川紗衣

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！高専での生活には少しずつ慣れてきましたか？



1年生では一般科目の授業が多いですが、「創造工学」などの時間を通じて各系について学び、次年度の系選択に備えることになります。2年生からは専門性の高い授業が増えていくので、将来の進路や興味のある分野、上級生の意見などを参考にしながら、自分に合った系を選択できると良いですね。

私が所属する電気電子系では、発電所のような大規模な電力システムから、身近な回路や半導体、情報伝送や信号処理まで、原理から応用まで幅広く学ぶことができます。

新しい環境に戸惑うこともあるかもしれませんが、分からないことがあれば、ぜひ周りの学生や教員に気軽に相談してください！また、本校では「ピアサポート」という、4・5年生に相談できる制度があります。学習や生活で困ったことがあれば、ぜひ活用してください。

皆さんが充実した高専生活を送れるよう、心から応援しています！

5年4組 桑原聡汰

1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます！ピアサポートや部活動を通して関わる機会があると思いますので、1年間よろしくをお願いします！



さて、私は情報科学・工学系の学生ですので、ここでは私の思う情報系の魅力を3つ紹介したいと思います。

1つ目は、欲しいアプリが自分で思い通りに作れるようになることです。情報系では様々なプログラミング言語を実践を通して学ぶため、作りたいものを自分で実現できるようになります。またひらめき次第ではビジネスとして成功することも大いにあり得ます！

2つ目は、ペーパーレスです。情報系では、授業資料や課題は基本的に電子で扱いますし、メモを取りたいときはiPadなどに書くことで対応できます。手軽に授業を受けられるため、とてもおすすめです！

3つ目は、就職や進学において将来性が圧倒的に高いことです。特に就職は、毎年沢山の企業から募集が集まる上に大手の企業が多く、待遇が良いのが特徴です！

理論的で難しい授業や実験レポートの提出により、大変な時期もあると思いますが、その分大きなリターンがあると思いますので、友達と助け合いながら高専生活を存分に楽しんでください！

5年5組 小泉健太

第1学年担任からのメッセージ

新入生に贈る

学生玄関に向って右、芝生の上に校歌の碑が建っています。平成26年、本校の創立五十周年記念事業で建立したものです。当時、書道の授業を担当されていた大澤尚洋先生が書かれた文字を刻んであります。

昔は新入生への校歌指導がありました。昼休み、応援団員が引率して屋上に上り、校歌の歌唱を指導しました。やがてその風習はなくなり、学生の多くが校歌を歌えなくなったようです。せっかく立派な歌碑があるのですから、天気の良い昼休みにでも、歌碑を眺めて覚えてください。

一番は自然豊かな高専の環境を讃え、二番は学生が高専で巡り会う試練を乗り越える心意気を歌います。そして三番では卒業して社会に有為の人材となる決意が歌われます。「花咲いて春



帰り／学び舎は故郷に似たり」今は新入生として加わったばかりのみなさんも、いずれは高専を故郷として巣立つことになります。胸を張って高専人としての人生を歩み得るよう、明日と言わず今日から勉学に励まれることを期待します。

今年度より学生主事を務めます近藤(都市・環境系)です。学生主事補の大島和浩先生(応用化学・生物系)、鈴木修平先生(総合人文科学系)、藤田彩華先生(応用化学・生物系)とともに、課外活動、各種行事の企画・運営、学生会行事の補助などの業務を行い、学生が充実した高専生活を送ることができる学校環境づくりを目指したいと思っています。また、学生の窓口となる学生課、保健室、学生相談室などの部署と協力・連携しながら、みなさんをサポートしていきます。



副校長(学生主事)
近藤 崇

一昨年度から、各種行事がコロナ禍以前のように対面で実施することができるようになってきました。本年度も、多くの学校行事や課外活動などが予定されています。コロナ禍でいろいろと活動が制約される以前はどのようなであったかを思い出すことが難しいのですが、学生のみなさんと教職員で協力し、昔を思い出しつつ、新しい課外活動や学校行事についても考えながら、学生のみなさんが、より充実した学校生活を送ることができるようにしていきたいと思っています。そのためには、学生のみなさん、保護者のみなさまのご理解とご協力が必要となります。よろしくお願いいたします。

GREETINGS

各副校長 ご挨拶

今年度より寮務主事を務めることになりました佐藤森(応用化学・生物系)です。寮務主事補の多賀健先生(総合自然科学系)、鳥田宏行先生(都市・環境系)、時田紗緒里先生(総合人文科学系)、長尾昌紀先生(応用化学・生物系)とともに、寮生活全般の指導を行っています。4月7日に新入寮生65名(1年生男子46名、1年生女子16名、3年生男子留学生2名、女子留学生1名)を迎え、今年度の学生寮は男子寮220名、女子寮72名でスタートしました。多くの新入寮生にとっては初めて親元から離れ、さらに慣れない集団生活に緊張や不安の中過しているものと思われる。教職員一同、規則正しい寮生活を送れるようにサポートを心がけてまいります。



副校長(寮務主事)
佐藤 森

本校の学生寮は集団生活を通して多くの仲間とともに様々な経験を得ることのできる重要な場であると考えています。今年度も多くの行事等を予定しており、入寮生は日々の寮生活を通じて豊かな人間性を身につけられることを心より願っております。しかしながら、各種感染症の影響が皆無となった訳ではありません。引き続き、寮生、保護者の皆様をはじめ関係各位におかれましては、ご理解とご協力をお願いいたします。

今年度より副校長(総務主事)及び創造工学科長を務めます八田茂実です。新たな役職を拝命し、本校のさらなる発展に貢献できるよう尽力してまいります。

総務主事の担当は、点検評価、広報、施設・防災、国際交流、将来計画と多岐にわたります。これらの業務を円滑に遂行するため、総務主事補の土居茂雄教授、有馬隆司准教授とともに、より効果的な運営を目指します。



副校長(総務主事)
八田茂実

特に学生・教職員が安全かつ快適に学び、働ける環境づくりを重点に置き、学校の種々のシステムの点検を進め、古くなったシステムの見直しや防災対策・施設設備の改善について検討を進めていきます。

また、全国の高専で推進されているグローバルエンジニア育成事業の一環として、本校でも国際交流事業をさらに活性化させてまいります。学生が異文化を理解し、国際的な視野を広げるため、国際交流事業や海外研修への参加を支援していきます。

最後に、保護者、同窓生、地域の皆様におかれましては、引き続き本校の教育改革と学生の成長を温かく見守り、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

今年度より、研究主事・専攻科長を務めます応用化学・生物系の甲野裕之です。副専攻科長の工藤彰洋教授(電気電子系)、渡邊智准教授(応用化学・生物系)、ならびに全教職員の協力を得て、専攻科学生の学修の充実と学修機会の確保に努めてまいります。また、専攻科特別研究の充実を図り、学生の教育・研究活動のさらなる向上に取り組んでいきます。



副校長
(研究主事・専攻科長)
甲野裕之

2025年度の専攻科・創造工学専攻には、1年生が22名(うち1名は他高専出身学生)、2年生が27名(うち1名はモンゴル高専出身学生)で、計49名が在籍しています。専攻科の2年間には、一般科目や専門科目の講義に加え、学外研修、マネジメント演習/アントレプレナーシップ演習(共同教育)など、企業等での実務体験ができる演習系科目が設置されています。また、地域連携やものづくり(創造性)を通じて、コミュニケーション能力やリーダーシップを養成するプログラムも用意されています。本科4・5年生と専攻科2年間の教育課程を修了することで、学士(大学卒業同等)の資格を取得することができます。

専攻科学生、保護者の皆様、同窓生、地域の皆様、関係各位におかれましては、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

昨年度より引き続き教務主事を務めます松田奏保(総合人文科学系)です。教務主事補の長澤智明教授(総合自然科学系)、松尾優子准教授(都市・環境系)、山本椋太准教授(情報科学・工学系)と共に、本校の教育環境がより良いものになるよう尽力して参ります。



副校長(教務主事)
松田奏保

半導体人材育成の要請が高まっていることを受け、昨年度に低学年を対象とした道内4高専連携科目「北海道半導体みらい論」を開設しました。また本校では、半導体産業のみならず、様々な分野で必要とされているIoTやAI・データサイエンスの知識や技術を持ち社会課題の解決に貢献できる人材育成に力を入れています。さらに、日本国内に限らず世界で活躍するための国際性や、自ら課題を見つけて分析し解決できる汎用的能力の育成など、社会のニーズに対応した教育改善に積極的に取り組んでいます。

時代の変化とともに高専に求められる役割も変化してきていますが、これまで長年培ってきた高専教育を基礎に置きつつ、学生の未来を見据えながら教育の充実を図る努力を継続して参ります。保護者、地域、同窓生の皆様におかれましては、今後とも本校の教育へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学 校 長 挨 拶

令和7年4月に校長として着任しました長野克則と申します。

苦小牧は私のふるさとです。1960年に西町、現在の新富町で水道工事業を生業とする家庭に生まれました。幼い頃は家から西側は牧場が広がる牧歌的な風景でしたが、その後、小学校入学くらいから道内炭鉱の相次ぐ閉鎖と共に苦小牧も高度成長、列島改造の波に乗り急激に人口が増加、糸井、錦岡まで急速に住宅地や団地が造成されていきました。子供の頃の思い出は坊主山、佐羽内沼への遠足、そして夏は毎日ように有珠川の源流部まで自転車で日本ザリガニやどんこ（カジカ）、とんぎょ（トゲウオ）、クワガタを取りにいったのが楽しい思い出です。佐羽内沼は昭和40年代に埋め立てられてしまいましたが、今あったなら親水公園として市民の憩いの場になったろうにと残念に思います。しかし、有珠川をはじめ樽前山西部から湧き出る川々の上流部は今でも原始の清流が見られます。住宅街からわずか100m森に入った先にあります。これは本当に素晴らしいことだと思います。皆さんも是非、探索されてみてください。ただし、熊には注意してください！

中学、高校になると駅前や駅裏に大手スーパー3店が進出し、駅前商店街も活況を呈していました。市内の高校を卒業後、北海道大学理I類に進学し、工学部衛生工学科、同修士課程を経て東京ガス(株)に2年間勤務をした後、母校の研究室に助手として戻りました。それから本年3月末までの36年間、同大学で教員として環境とエネルギーについての教育・研究・社会貢献に携わってきました。私の専門は再生可能エネルギー熱利用、特にヒートポンプ応用によるCO₂排出量と環境負荷の削減、ZEB/ZEH、空調工学、都市のエネルギーシステムなどで、教え子は主にゼネコン、設計事務所、サブコンなど建築設備やエネルギー関連企業などに進んで活躍しています。私の人生を振り返ると、人の縁の導かれるように進んできた訳ですが、この度、正に運命的な縁をいただいて苦小牧高専に校長として勤務することとなりました。北大に勤務していた頃には、高専の先生方と同じ様に学生達と一緒に手作りの実験装置や設備、自前のコンピューターシミュレーションプログラミングを使って研究を行ってきました。この様なもののづくりの長年の経験はこの苦小牧高専でも役に立つと思っています。

未来の宝である若い学生諸君と共に、学識と経験豊富な素晴らしい先生方、熱心に業務に取り組んでおられる職員の方々と一緒に、この苦小牧高専で働ける日々を大切に、誇りに思っております。皆さん、そしてOBの方々、地域の応援していただいている方々と一緒に、この苦小牧高専をより素晴らしい学校にしていこうと誠心誠意努力して参る所存ですので、これからどうぞよろしくお願いいたします。

念ずれば花開く。

苦小牧工業高等専門学校 第十二代 校長 **長野克則**

PROFILE

1960年（昭和35年）、苦小牧市生まれ

苦小牧高等学校卒業、北海道大学工学部衛生工学科卒業、同修士課程修了

学位：博士（工学）（北海道大学、1996年）

1986年東京ガス(株)、1988年北海道大学助手、1997年同助教授、2006年同教授、2014年～2017年総長補佐、この間、ポーランド共和国ワルシャワ工科大学で在外研究

新／留／学／生／紹／介

新しいアドベンチャー

3年5組
チェン



サワディーカップ。はじめまして、タイから来た留学生のCHENです。今年の4月から卒業まで、苫小牧高専で情報科学を勉強します。

苫小牧に到着してから、うれしい気持ちをたくさんもらって、新しい経験をしてみたいと思いました。苫小牧高専でやってみたいことがいろいろあります。苫小牧高専のみなさんはとても親切で、さまざまなことを助けてくれました。授業では日本語を使っているので、難しいけど、とても面白いです。今、少しずつ学校生活にも慣れてきました。

私はサイバーセキュリティエンジニアになりたいです。悪意のある人たちから世界を守って、みんなが安心して暮らせるようにしたいです。そして、世界中のすべてのものがつながっていても、安全に使える未来をつくりたいです。そのために、苫小牧高専で知識を一生懸命勉強したいです。

これからも、よろしくお願いします。そして、みなさんに感謝しています。

留学生としての第一歩

3年4組
ティマシャ



私はスリランカから来た留学生、ティマシャです。

スリランカで高校を卒業した後、MEXT奨学金に合格して、来日しました。その後、東京日本語教育センターで一年間日本語を勉強しました。

苫小牧高専に来てからまだ一か月しか経っていませんが、すでに多くの友達できました。そして、他の国から来た留学生の先輩方もいて、とても心強く感じています。苫小牧高専の先生方もとても親切で優しいので、これからの生活も安心だと思っています。

実は、東京を離れて苫小牧に来るとき、少し不安がありました。ここには私一人しか進学しなかったのかと心細く感じていました。でも、来てみたら、周りの皆さんがどんな小さなことでも親切に助けてくれて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもその気持ちを忘れずに、最後まで一生懸命頑張りたいと思います。

私は電気電子工学科で学んでいます。スリランカではまだ発展が必要な分野が多いため、日本でしっかりと知識と技術を身につけ、将来は母国の発展に貢献したいと考えています。授業以外でも多くのことを学べると思うので、これからの3年間でとても楽しみです。よろしくお願いします。

新しい経験

3年3組
ジャレッド



日本の高専に来て、もう一か月が経ちました。私はマレーシアから来た ジャレッドです。マレーシアでは、高校を卒業した後、日本語の学校で勉強していました。1年6ヶ月を勉強した後、苫小牧高専に入学しました。苫小牧で、毎日新しい経験をします。

最初は日本の寒さに驚きました。マレーシアは一年中暑いので、寒い気候には慣れるのに時間がかかりました。でも、雪を見るのは初めてで、とても楽しかったです。

日本語も少しずつ上達しています。最初は話すのが怖かったけど、今はもっと自信を持って話せるようになりました。これからも勉強を続け、もっと日本語を上達させたいと思います。

高専の先生達と生徒達が私に助けてくれました。先生達と生徒達のおかげで、私は苫小牧に楽しい生活をしています。



学生会の紹介

学生会長 都市・環境系5年 吉原ゆい

今年度の学生会長を務めさせていただきます、都市・環境系5年の吉原ゆいです。和気あいあいとした雰囲気の中で、メンバーと共に一年間しっかりと活動していきますのでよろしくお願いいたします。

私たち学生会の役割は主に対面式や学生総会、高専祭や体育大会などの学生会行事の企画、準備、運営です。高専祭や体育大会ではほかの委員会と連携し、企画立案から当日の運営までを担っています。学生総会などの集まりでは、進行役も担当しています。そして、より楽しい行事づくりや、円滑な運営のために年に2回、道内の4高専の学生会役員と意見交流を行っています。

私たちの活動は皆さんのご理解とご協力が必要不可欠です。これからも本校の更なる高みを目指し、学生会役員一同、精一杯努めてまいりますので、何卒宜しくお願いします!!



教育理念

豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。

本科学士の 学習目標

- Ⅰ 人間性: 正課、行事、課外活動等を通して、豊かな人間性と教養および自主自律の精神を身につける。
- Ⅱ 実践性: 創造力の基礎として、実践力および将来に向けて自らを向上させる学習習慣を身につける。
- Ⅲ 国際性: 世界に目を向ける姿勢と教養およびコミュニケーションの基礎能力を身につける。

創造工学科の目的

創造工学科は、工学分野共通の基礎を教育した上で、豊かで安全な未来を創造するための核となる専門分野とその周辺の知識と技術に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性及び広い視野をもった人材を育成する。

専攻科 学生の 学習目標

- Ⅰ 人間性: 他者と協働し、未来の社会に寄与する、豊かな人間性と教養及び広い視野を身につける。
- Ⅱ 創造性: 工学分野における専門的な知識と経営的知識に加え、複数の視点で物事をとらえて新しい技術を創造する基礎力を身につける。
- Ⅲ 国際性: 地域や国際社会で活躍するための教養とコミュニケーション能力及び相互理解の精神を身につける。

創造工学専攻の目的

専門知識や技術を基礎とし、経営的知識をもって社会変化に柔軟に対応して、新しい分野でも活躍できる実践的・複合的能力を養成する。

研究の目的・社会貢献の目的

学術の進展に教育内容を即応させるため、必要な研究を行う。
また、研究活動や地域への教育活動等を通して、地域・社会の発展に寄与する。

国際交流の目的

広く世界の文化について理解し、国際的視野をもって、世界や地域社会で活躍する実践的人材を育成することを国際交流の目的とする。また、教職員の国際感覚を磨き、グローバルかつ先進的な教育・研究を推進する。

学生課からのお知らせ

本校の学生課は、担当する業務によって5つの部署に分かれています。学生生活に直接関係のある各係の主な業務は次のようになっていますので、問い合わせや連絡は各係の直通電話をご利用ください。

なお、学生課には、保護者等の皆様などから、電話での問い合わせや連絡などが多数寄せられます。こうした電話に対して「担当係（担当者）に代わります。」などと、電話を回すことで、ご不便をおかけすることありますが、担当係（担当者）ごとに専門の業務を分担しておりますことをご理解願います。また、学生の呼び出しや伝言等の取り次ぎについては、緊急を要するもの以外は行っておりませんので、ご承知おきください。

寮務係

【直通電話】0144-67-8002
【学生寮教員当直室】0144-67-8024
（夜間緊急用17:00~8:30）

- 学生の入寮及び退寮に関する事
- 寮費の徴収など諸経費に関する事
- 緊急の場合の外泊の連絡



教務係

【直通電話】0144-67-8001

- 授業、試験に関する事
- 休学、復学、退学及び進級、卒業に関する事
- 在学証明書、成績証明書、卒業証明書などの学生の諸証明に関する事
- 学生証の申請に関する事
- 担任に連絡がつかなかった場合の欠席等の連絡

図書係

【直通電話】0144-67-8905

- 図書の閲覧、貸出しに関する事
- 学術文献の収集及び提供に関する事
- ノートパソコンの貸与に関する事
- その他学術情報センターに関する事



学生係

【直通電話】0144-67-8032

- 奨学金（日本学生支援機構等）に関する事
- 入学料、授業料の免除等に関する事
- 学生の保健管理（カウンセリングの申込等）に関する事
- 学生の課外活動、行事等に関する事
- 学生旅客運賃割引証及び通学証明に関する事

キャリア教育センター

【直通電話】0144-67-8946

- 就職に関する事
- 進学（大学への編入学試験等）に関する事
- 企業・大学の説明会等に関する事
- その他進路に関する事



卒業生・修了生へ贈る言葉

本科卒業生ならびに専攻科修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。

また、これまで暖かく支えてくださったご家族の皆様方、心よりお慶び申し上げます。

令和六年度、苫小牧高専開校六十周年の締めくくりとして皆さんの卒業・修了を祝えることを心よりうれしく思います。本校の卒業生は、これまでに八千七百名を超えており、皆さんもその一員として加わることになります。また、専攻科は四百七十名を超える修了生がいて、広い分野で活躍されています。

本科卒業生の皆さんは、創造工学やフロンティアコースなど、特色あるカリキュラムでの学びがありました。皆さんが、将来どのような活躍をするのか、教職員はもとより、諸先輩も大変に期待されています。専攻科修了の皆さんは、創造工学専攻において工学の専門分野に加えて経営的知識も学ぶなど、分野を横断する幅広い知識を身に付けており、変革の時代を牽引する技術者として活躍することを確信しています。

卒業生の皆さんが入学した年は、新型コロナウイルス感染症が拡大し、入学後すぐに遠隔授業に切り替わるなど、学生生活に大きな影響がありました。しかし、皆で困難な状況を乗り越えようと取り組んだ経験は、それぞれの進路において出会うであろうより大きな困難を乗り越える力と勇気を与えてくれることでしょう。また、世界情勢は混乱を極め、その影響は経済活動だけではなく教育の場にも及んでいます。私たちは、世界中の人々が安心して

Congratulations

て豊かな時を過ごせるように、高い志を持った技術者・研究者として研鑽を続けなければなりません。北海道は半導体産業の世界的拠点となることが期待されています。将来的には皆さんが活躍する様々な分野において北海道産半導体が中核を担う時代が来るかもしれません。DXやGXに関する素養を育んだ皆さんが築いていく新時代に希望と期待を持って応援したいと思います。

本校の教育理念には、「豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。」とあります。これからこの理念を胸に、自ら進んでさまざまな課題に取り組んでください。将来何か難しい課題にぶつかったときに、恩師である先生たちは必ずや皆さんにとって良きアドバイザーとなることでしょう。また、皆さんには高専における教育と研究に関心を持ち続け、それぞれの立場から高専を応援してほしいと思います。高専の門戸は卒業生・修了生にも開かれていますので、気兼ねなく訪ねてください。私たち、教職員一同、社会で活躍している皆さんと再会できることを楽しみにしています。

これからの未来社会を築くのは皆さんたちの世代です。皆さんのさらなる成長を願うとともに、皆さんの未来に心から期待しております。

令和七年三月十四日

苫小牧工業高等専門学校長 小林 幸徳

卒業生保護者からの言葉

Stay hungry, Stay foolish.

ご卒業、おめでとうございます!

殆どの方がエンジニアという、社会の進歩を担う希少で価値ある専門家としての道を歩み始められるのでしょうか。橋や建物、スマートフォンやAI、あらゆるものがエンジニアリングによって生み出され、皆さんの若い発想力が進化を加速するものと信じています。

ただその力は社会に影響するが故に責任が伴う事も忘れないでください。一見豊かで便利そうに見えるけど実はツマラナイ、ましてや不幸な世の中にならない様、常に目を凝らして頂きたいのです。「社会に出る前から無理言うな」とツッコまれそうですが、皆さんは確実に様々な困難に直面します。これまで経験したこと

電気電子系卒業生／久保遥輝 《父》久保輝洋

のない事が次々と起き、それどころではないかもしれません（それ以上に楽しい事も多いのでご心配なく）。

皆さんがよくご存じの先生が、タイトルの英文を含んだメッセージをお部屋に貼ってらっしゃいます。これは常に学び続け、現状に満足せず、新しい知識や経験に貪欲であれ。そして常識にとらわれず、失敗を恐れず、愚直に挑戦し続けろ、と一般的には解釈されています（皆さんの解釈は如何に?）。

私はこのメッセージが、特に高専を卒業された方には突破口となり皆さんの将来が輝かしい成功に満ちたものになることを信じています。Stay hungry, Stay foolish. そして、世界を変えてください。

試練と成長の5年間、そして次のステージへ

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

5年前の入学式の日が昨日の事のように目に浮かびます。

初めての寮生活、心配な部分半分、独り立ちへの第一歩だと期待する気持ち半分を抱きながら送り出しました。ところが2日後にいきなり休校の連絡!! 再び自宅へ逆戻りしてオンライン授業の日々への突入でした。

中学校の卒業式あたりからコロナ禍が始まり、子どもたちは色々な不便を強いられた学生生活だったと思います。そんな中でも一歩ずつ確実に課題をこなし、進路を決定し、卒業研究に苦勞し

情報科学・工学系卒業生／三浦大知 《母》三浦史佳

ながら取り組んでやり遂げた姿に成長を感じました。

5年間の学生生活を終え、これから社会人生活へ踏み出す息子へ、5年前と同じく不安半分期待半分を抱きながらエールを送ります。高専生活で培った知識や経験を武器にして新たなステージを戦っていただきたいと思っています。

諸先生方、5年間ご指導いただき本当にありがとうございました。



GRADUATION PHOTO



VOICES of Graduates

卒業生・修了生からの言葉

高専生活を振り返って

機械系 辻本 隼也



高専での5年間を振り返ってみると、入学してすぐにコロナ禍で遠隔授業が始まり、友達を作るタイミングもなく不安なスタートでした。さらに、膨大な課題や難易度の高い専門科目にも苦戦し、果たして自分は卒業できるのかと思うことばかりでした。それでも、機械系の人々と助け合いながら、無事に卒業を迎えることができました。

高専生活は、常にやらなきゃいけないことが山積みで本当に大変でした。ですが、あの時くじけずに取り組んだ経験が、今では自分の大きな力になっていると実感しています。

私は多くの人に支えられながら様々な経験を積み、人と関わる上で大切なことを数え切れないほど学びました。学生だからこそ許されること、挑戦できることがたくさんあります。自分のやりたいこと、今しかできないことを大切にしながら、充実した学生生活を送って欲しいです！

最後になりますが、ご指導いただいた先生方、一緒に歩んできた仲間、自分を頼ってくれた後輩たち、ずっと支えてくれた家族に心から感謝申し上げます。

高専生活を振り返って

都市・環境系 寺田 快



高専生活の5年間は長いようであっという間です。社会人への準備期間として、より良い人間関係を築くことが何よりも重要だと感じました。私は、苫小牧高専に推薦型で合格したものの、初めは勉強についていけず最低ランクの学力でした。そんな中、寮生の仲間や信頼できる友達、熱くなれる部活のメンバーに支えられ、部活と勉強を両立させ、どちらもより良い結果を残すことが出来ました。

高学年になると、卒業研究の始まりや授業数の減少などにより、学校内で関わる人が限定され始めます。しかし、社会に出ると自分の好きな人以外と関わるのが大半です。話す相手が同年代ではなくなるにつれ感覚にギャップが生じストレスに感じるが増えると思います。そんな中でも生きていくためには、自分自身と異なる環境にいる人や異なる年齢の人と多く接する癖をつけることが大切です。

新入生や在校生の方には、是非とも多くの人と関わることで経験を積み、苫小牧高専生として社会に誇れる人になってください！

高専生活を振り返って

応用化学・生物系 高野 紗弥花



入学したばかりの頃は、5年という月日を非常に長く感じておりました。

しかしながら、慌ただしくも充実した高専生活は、瞬間に過ぎてしまいました。

課題、レポート、試験に追われ続ける日々でした。

幾度となく挫けそうになりましたが、周囲の方々の温かい支えのおかげで無事に卒業の日を迎えることができました。感謝の念に堪えません。

思い描いていた「聡明で凛々しい高専生」とはかけ離れた不器用な学生生活を送ってきました。人に自慢できることは何一つないものの、私にとっては全部かけがえのない思い出です。

この5年間で最後まで走り切ることができたこと、そして切磋琢磨しあえる素晴らしい友人たちと出会えたことは、今後の人生において大きな財産となるでしょう。

最後になりますが、支えてくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。また、皆様の高専生活が実り多きものとなることを、心より願っております。

花知鳥待花—あなたは今何章目？

電気電子系 齋藤 蓮



この文章を読んでいるあなたは素敵で、何か欠けていて、世の地獄を経験した人だと私は確信しています。そして、そのような中、誠実に生き抜いてきたあなたや私の友人達はこの文章を読んでいて、この先知らない間に誰かを「救う」ことも、私は確信しています。

あなたは強く、弱く、今を耐え続けています。想像出来ないほどの、辛く痛く、悲しく苦しい思いをして、人に伝えられないものを抱え、バラバラになった心を無理やりかき集めながら、ようやくここまで辿り着いたあなたを、私だけは忘れるつもりはありません。

孤独な秋を耐え、過酷な冬にむらがった雪をかき分けて、春に芽吹き豊潤な夏を目指す花のように、あなたは生きています。脆弱な花は咲き、待ち続ける鳥を救う。私たちは鳥であり、花であり、まるで自然の摂理のような関係です。

そんな営みを生きる花と鳥は巡る季節の先で再び「出会ってしまう」から、別れの言葉は必要ないかもしれません。

私はようやくプロローグが終わりましたが、あなたの人生は今何章目ですか？

5年間を振り返って

情報科学・工学系 小笠原 圭吾



5年間の高専生活は、本当にあっという間でした。入学当初はコロナ禍で遠隔授業が続き、友人関係を築けるか不安でしたが、2年から対面授業が始まると次第に仲間と打ち解け、互いに学び支え合う中で、充実した日々を送ることができました。

情報科学・工学系の実験や研究では、知識を深めるとともに新しい技術に挑戦することに、大きなやりがいを感じました。特にチーム開発の実験では、仲間と議論を重ね、課題を解決していく過程で、自身の成長を実感することができました。

この5年間、私を支えてくださった先生方、家族、そして友人には心から感謝しています。在校生の皆さん、レポートや課題に追われる日々は大変だと思います。しかし、その努力は必ず将来に繋がります。ぜひ前向きな気持ちで高専生活を最大限に楽しんでください。

7年間の思い出

創造工学専攻 横川 愛莉



私は中学校を卒業してから7年間の時を苫小牧高専で過ごしました。特に専攻科に入学してから2年間は濃密でたくさんの経験を積むことができました。私にとって高専での経験は、単に技術を学ぶだけでなく、自分を表現し、他者と共に課題を解決する力を養うものでした。インターンシップでは将来社会に出て働くイメージをより明確にすることができました。ニュージーランドでの語学研修では様々な国から集まった友人たちと出会い、新たな環境で自分と異なる考え方を持つ人々と交流する楽しさを知りました。また研究室の仲間と夜遅くまで取り組んだ実験や学外での研究活動も非常に貴重な思い出です。その成果を学会で発表したときには日々の成長を実感することができました。学年が上がるにつれて自由な時間が増えます。ぜひ興味のあることに積極的に挑戦してください。苫小牧高専は幅広い学年、専門系の学生が集まる学校で、頼もしい指導者がたくさんいます。高専での学びを通じて多様な視点、思考をもつ仲間と切磋琢磨し、共に成長しましょう！

学 会 賞 ・ 高 専 賞 受 賞 者 一 覧



国立高等専門学校機構学生表彰

創造工学専攻…………… 長谷川翔音

特別功労賞

機械系…………… 秋 葉 一 瑳

都市・環境系…………… 辻 悟 司

都市・環境系…………… 西 田 那 奈

応用化学・生物系…………… 山 崎 流

学会賞

日本機械学会島山賞

機械系…………… 真木丈士朗

全国高専土木工学会近藤賞

都市・環境系…………… 大 沢 穂 香

日本化学会北海道支部長賞

応用化学・生物系…………… 本 間 陽 菜

電気学会北海道支部長賞

電気電子系…………… 中 野 敏 清

情報処理学会北海道支部工業高等専門学校奨励賞

情報科学・工学系…………… 小笠原圭吾

精密工学会北海道支部学生奨励賞

創造工学専攻…………… 松 村 碧 陽

退職教員からのご挨拶

退職にあたって

校 長 小林幸徳

令和元年10月1日に校長として着任し、令和7年3月31日をもって定年退職しました。前半は新型コロナウイルス感染症対策に追われ、学生・保護者の皆様方には大変ご不便をお掛けしました。皆様方のご理解とご協力、そして教職員の皆様のご協力で困難な状況を乗り切れたことに感謝申し上げます。後半は多くの学校行事を再開でき、学生諸君の元気な様子に接したことは、大きな喜びでした。そして令和6年度には、開校60周年の各種事業に後援会、協力会、樽前会をはじめとする皆様方のご支援をいただきました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。高専教育は社会の要請に応えるべくアップデートし続けることが求められています。中核校として大きな期待を寄せられている苦小牧高専が、益々発展することを願うとともに、OBの一人として応援し続けたいと思います。

最後になりましたが、皆様方のご健勝と益々のご活躍を祈念申し上げます。



退職にあたって

情報科学・工学系 阿部 司

故 今田先生からのお誘いにより平成4年に情報工学科の教員として採用され令和6年7月末に退職しました。本校電気工学科12期の卒業生です。大学を卒業後、現NTTコムウェアに就職し、担当した電子交換機ソフトウェア開発の経験から主に情報通信系の教科を担当してきました。

学生時代を含め約40年間高専で過ごしてきたことになります。この間、担任・顧問・校務・系長などを担当させていただきました。至らなかつた事が多々あり大変申し訳ないと思っております。一方、情報科学・工学系（情報工学科）の卒業生の活躍や、卒業生を本校の教員として迎えた事など、少しはお役に立てたのではないかと思います。

退職するまで大きな災害も経験しましたが、特に病氣療養、コロナ禍の期間は、教職員だけではなく学生の皆さんの御協力に大変感謝しております。

本校を卒業する時に、教員として戻ってくるとは全く考えていませんでした。学生の皆さん、今後の人生に何かがあるか分かりませんが、自分を大切に、その時に出来ることに努力していただきたいと思います。



退職に当たって思うこと

応用化学・生物系 古崎 毅

赴任してから30年が経ち、退職の日を迎えました。その間多くのお思い出がありますが、一番は顧問をしていた野球部が平成10年の夏季大会で円山球場に出場した事です。多くのOBが球場に駆けつけて下さり、その応援を背に受けて選手が伸び伸びと試合を楽しんでくれたことがとても誇りしかったです。次に地域共同研究センターの仕事に8年間携わった事です。幅広い人脈を築くことができ、地域の方々との共働の楽しさを知る事ができました。さらに、モンゴルの高専の支援事業に10年間携わった事です。モンゴルの先生方の技術者育成に対する熱い思いと学生のキラキラした瞳に沢山の刺激を受けました。そのご縁もあり、今秋から教員としてモンゴルで働くことになりました。

今振り返ると、全ての日々が多くの教職員に支えられ、学生からパワーを貰って、自分を成長させてくれたと考えています。皆さんが、自分を信じて幾多の苦難を乗り越え、限りなき宇宙の真に迫り、勇気もておのれの善を尽くし、人の世のまことの幸を築く事ができる大人に成長する事を常に願っています！



退職のご挨拶

機械系 當摩栄路

みなさん、こんにちは。この度3月末で本校を退職することになりました當摩です。簡単ではございますが一言ご挨拶をさせていただきます。まず私の略歴ですが、東京の工業系大学卒業後、東京の半導体製造装置メーカーで7年間就職し、北海道の自動車部品製造メーカーに転職して約25年間企業戦士として過ごしました。その間、技術スーパーバイザーとして欧米諸国含む6か国の海外赴任を約5年間経験いたしました。やがて53歳の時に自分としても転職が訪れて、山形県の鶴岡高専に機械工学科の教員として赴任しました。家族が北海道苦小牧市に在住していた関係もあり、苦小牧高専に転籍して現在に至ります。高専の教員として振り返りますと、本来学生の皆さんに教える立場ではありますが、逆に学生のみなさんから様々なことを教えてもらった方が多かったような気がします。

高専の教員に赴任して12年間と短い間ではございましたが、皆さんのご健勝とご多幸をお祈り申し上げて退職のご挨拶とさせていただきます。

なお、4月以降は高専サテライトオフィス（C-base）でコーディネーターとして週3回勤務し、また週1回は非常勤講師としていわゆる2刀流でまた皆さんとお会いできるかと思います。今後ともどうぞよろしくお願いしたいと思います。





KOSEN Global Camp in 苫小牧 座談会

令和7年2月22日～3月1日の8日間、KOSEN Global Camp 2025 in 苫小牧が行われました。参加者22名のうち、苫小牧高専から参加した5名で座談会を行いました。

聞き手：有馬 隆司准教授、アルテアガ アルテアガ フェルナンド特命准教授、上場 一慶助教

2年3組：藤松 紗也 2年4組：荒木 佑斗 2年4組：庄司 大地 2年5組：三上 皓聖 3年1組：五十嵐 夏樹

本イベントは、モンゴル・タイ・日本の高専生が多国籍でチームを組み、様々な課題に英語を用いて取組み、知識や技術を身につけるだけでなく、異文化理解やコミュニケーション力の伸長を図ることを目的として行われました。参加者は全員苫小牧市内のホテルに宿泊しプログラム時間外も自由に交流を楽しみました。

主な内容

●ものづくり実習：チームでバスタブリッジを作成・バスタブリッジコンテスト、創造工学工房でオリジナル箸作り ●マネジメント実習：2人1組で経営シミュレーションゲーム（SCCゲーム）、成果発表会（ポスター発表） ●学外見学：エスコンフィールド、トヨタ自動車北海道、ウボボイ ●フェアウェルパーティー：各国からの出し物、スピーチ

①参加しようと思ったきっかけは？

庄司 最初のきっかけは藤松さんに誘ってもらったことです。僕は海外に行ったり海外の人と関わったりという経験がなかったので、一年生のうちにこういう経験ができるのはすごくいい機会だなと考えて、参加しようと思いました。

荒木 Teamsの国際交流チームのチャネルで来た案内に、エスコンのツアーに行けるって書いてあったので、エスコン行けるじゃんって申し込んでみたら英語でコミュニケーションをするイベントだったという次第です。何も知らずに申し込めました笑

藤松 一年生の夏休みに学校のイベントで1週間ぐらいタイに行って、そこで英語を使うって楽しかった思い出です。そこからずっと英語を勉強している中、国際交流のチャネルでこのイベントの案内を見て、自分の英語力を試す機会になると思って参加しました。

五十嵐 過去にタイに行った経験があったことと、去年函館のGlobal Campに参加して、すごく楽しかったからです。国際交流で、しかもエスコンとかも行けるっていうプログラムも魅力的だったので行ってみたいなと思っていました。

三上 昔から英語は結構やってきた方だったので、英語関係のイベントには大体参加しようと思っていました。もう一つ、私は長期休みになると、生活リズムが崩れるので、その間に規則正しく生活できる期間を設けておいた方がいいなと思ってたのもあります。

②イベントを振り返って特に印象に残っていることは？

庄司 海外の人と関わるのが初めてだったので、英語で外国の人と話してみるのがいい経験自体がすごく印象に残っています。話してみても、自分に英語力が全くないことを痛感したというのもありました。あとは最終日のプレゼンテーションで使うポスターを、夜ホテルで作る時に、ペアの人と英語で話したり雑談とかできた時間がすごく印象に残っています。

荒木 2日目の昼食時、みんなで同じお弁当を食べたとき隣のタイの人が箸で梅干しをつまんで、これは何って聞いてきたので、ベリデリシャスフードで騙して笑った感じがコミュニケーションを取れました。そのチームの皆で最終日の前日に夕食を食べに行ったんですが、そこでもまた、梅干しの件のタイの人がおすめは？と聞くので、イカ墨パスタを指して、これがおすめですと笑った。その後、タイやモンゴルの人が友達に食べさせると言って、ドンキホーテで皆で梅

干しを買ったりしていたのが思い出に残っています。

上場 梅干しをもった他の外国人学生の反応はどうでしたか？

荒木 驚いていました笑

藤松 梅干しだけでなく、ホテルの朝食で出た納豆も外国の方々に驚きがあったようです。「初めて」「臭い」と言っていました。文化の違いが大きいんだと思いました。

三上 モンゴルの学生と札幌へ行って、アヌイトに行きました。私も含め全員が初めて入りましたが、日本に来て数日しか経てない人達がまるでベテランのようでした。私よりアニメの知識が豊富で、これはこういうキャラで、こういうアニメのこういうシーンでという話を聞きながら札幌を回ったのが印象的でした。

五十嵐 最終日のSCCゲームが、説明も全部英語で全く分からなくて困りました。分からない中で、タイの学生さんがすごく色々フォローしてくれて、分からないなりに少しは楽しめたので、すごく印象に残っています。

③イベントに参加して得たものは？

庄司 一番大きかったのはやっぱり英語です。学校の英語の時間では筆記に対して、あまり喋ることをしてこなかったのが、英語だけで過ごしてみる環境で、話す力とリスニング能力がかなり身に付いたと思います。

五十嵐 一番は危機感でした。普段英語を勉強していても実



キャンプ中のようす

際喋るようになるって全然聞き取れなかったし、話すのもすごく苦手で、なぜか日本語になっちゃって。そういう普段得られない英語の一面を勉強できてすごく良かったと思います。

三上 モンゴルの学生の一人と友達になったことです。チームで夜ご飯に行く時も、その人が海外の人を集めてくれたりして頼りになりました。

④これから国際交流イベントに参加を考えている学生にアドバイスするとしたら？

庄司 上手な英語を話すのも大切なんですけど、それより伝えたいという気持ちや、伝えようと努力することが一番大事だと思います。英語がよと苦手って人は、うまく伝えようとするんじゃなくて、単語だけでもいいから伝えようって頑張る姿勢を大切にしてほしいなと思います。

荒木 海外の人と話すってことは、やったことない人からすれば怖いというか、緊張することだと思います。うまく伝えられるかなという不安もあると思いますが、とりあえず片言でも簡単な単語でもいいから、コミュニケーションを取ろうという意思を見せるのが一番大事かなと思います。

藤松 国際交流のイベントに参加するっていう気持ち自体がすごく大事だと思います。私は今回のGlobal Campだけでなく、色々な国際交流のイベントに参加して英語を話しています。まだ英語力は十分に付いていないですが、その経験がすごく大事だと思います。

五十嵐 お互い英語が理解できるから分からないし、言語ってコミュニケーションの一つの手段じゃないと思うから、ジェスチャーで伝えるとか、写真見せてこんな感じだめっていうような、言葉以外のコミュニケーションでできる手段やアイデアをたくさん持つておくのと良いと思いました。そういう手段があったらなんとかなると思います。

三上 事前に英語のYouTubeを見て、完全には分からなくても、ぼんやり言うてる意味が分かるぐらいのレベルになっておくとか楽しいと思います。英語が不安な参加者が結構いたと思うんですけど、留学生も日本人も英語得意な人が橋掛け役になってくれて、なんかかんやどにかなるので、あまり恐れずに参加して良いと思います。

藤松 英語だけでコミュニケーションするっていうプログラムと聞くと、英語苦手な人にとってはちょっと参加しづらいイベントかもしれないですが、他高専の学生と交流できるイベントで、とても楽しかったなって思います。

⑤今回の経験を今後のように生かしていきたい？

庄司 参加する前は海外の人と関わるのがちょっと怖かったんですけど、参加したら怖いより楽しいが強かったです。今回得た知識や経験を別の国際交流のイベントに参加して活用したいです。あと、参加したことがない人は、海外の人と話したことがない人が多いと思うので、そういう人に、国際交流は面白いよ、っていうのを伝えたいなと思います。

荒木 僕にとつて初めての国際交流のイベントでしたが、初めて会った海外の人と交流すること、コミュニケーションを取

とてもできたので、1回参加するだけでも、すごく自信がつきました。英語が話せる。みたいになったわけじゃないけど、簡単な英語しか使わなくてもコミュニケーションはできたので、今後の国際交流でもこの気持ちを忘れずに色々な人とコミュニケーションしていけたらなと思います。

藤松 今回のGlobal Campでは日本語ではなく英語で話すという、日常ではできないことを体験できました。これから海外で働く機会もあるかもしれないので、その時にまた今回の経験を活かしていきたいと思います。

五十嵐 今回のモンゴルとかタイの人と話す機会が多くて、一番思ったのは文化の違いで、同じような事でも自分たちが感じることと相手の受け取り方は違ってたというのが分かりました。就職して色々な国の人と関わることもあると思いますが、そういう場面で自分と相手は違うというのは当たり前として、言葉とか相手の生活とか、そういう側面を考えられるようにしていきたいなと思います。

番外編

①「英語だけでコミュニケーションする」というプログラムについて率直な感想をお願いします。

庄司 難しいけど楽しいです。日本で生活していると、英語だけで生活するっていうのはほないので、僕にとっては挑戦でした。これからもっと挑戦していきたいし、この英語だけでコミュニケーションするっていうプログラムは、別な機会でもあったら嬉しいなと思います。

荒木 自分にできるかは自信がなかったんですけど、実際にやったら楽しいし、笑いが取れたし、達成感があったり。すごく楽しいプログラムだなと思いました。

藤松 自分の英語力のなさから、相手を困らせてしまったりすることがあったので、英語の授業だけじゃなく、海外の人々との交流の中で生きた英語を使っていたらなって思いました。

五十嵐 英語だけでコミュニケーションするっていうのをあんまり意識してなくて、日本語や翻訳アプリとかも使っちゃってたんですが、向こうも英語圏の人ではないのでなまりとかもあり、英語のプログラムというよりは国際交流として面白かったなあと、いう感想です。英語圏の人に来てもらうとか、日本ではと日本語を結構使ってしまうので、英語圏の国に行ったりしたいなと思いました。

②プログラムの時間外で思いに残っていること

庄司 フェアウェルパーティで、それぞれの国で出し物をしたことです。折り紙とか、フルーツバスケット(?)とか。後はモンゴルの方の出し物が歌で、先生がものすごく歌がうまかったもの印象に残ってます。歌の意味はよく分からなかったんですけど、すごくいい歌だなと。モンゴルの人が皆で歌うのかと思ったら先生だけ歌って、カラオケみたいでした。あと、宿泊したホテル内のロビーでモンゴルの学生と話し込んだりしたのが思いに残ってます。



エスコンフィールド見学

藤松 最終日にモンゴル高専の学生さんがお土産くれたモンゴルのチョコがすごく美味しくて、思いに残っています。

五十嵐 夕食がプログラムには入ってなかったんで、チームの人と夜ご飯に行っただけですけど、スシローとかしゃぶ葉は、タイにもあるよって言われて、せっかくドヤ顔で連れてったのに衝撃を受けました(笑)。あとは、タイでの大きな地震や、水かけ祭り(ワットラーン)の写真をSNSで送ってくれました。プログラムが終わった後も色々交流できてよかったです。

③準備しておいてよかったものは?

庄司 日本のお菓子を持っていたおかげで仲が深まりました。共通の話題になるのを持っていたって損はなかったと思います。あとやっぱり英語の準備はしておいた方がいいなと思います。英語の単語帳に目を通しておくとか、少しでも準備しておいたのが助けになったかなって思いました。

荒木 何も準備してません。英語の勉強もせずに行ききました(笑)。

上場 なんとかなった?

荒木 なんとかなりました。ただ自己紹介の内容だけはちゃんと決めてました。野球好きだから、エスコンに行けるから来たって言うのは思っていて、実際にそれで自己紹介しました。

藤松 私も何も準備しなかったです。日本のお土産をちゃんと用意しておけばよかったなと思いました。

五十嵐 自分もお菓子で、「たけのこの里」と「きのこの山」を両方買ってお土産のお返しに配りました。「たけのこの里」と「きのこの山」どっちが好きか?を聞いたとして、それで盛り上がったのがすごく楽しかったです。

と「きのこの山」どっちが好きか?を聞いたとして、それで盛り上がったのがすごく楽しかったです。

上場 海外の人にはどちらが人気だったんですか?

五十嵐 半々くらいですね。どちらとも人気でした。

三上 You Tubeで英語に耳慣らしておくと、結構役に立つのかなと思いました。

④今だから言える失敗談

庄司 英語が苦手なので、発表の準備で先に言うことを調べてノートに書いておいたのですが、読めない単語を多く詰め込み過ぎて、発表時間内に終われなかったことです。結局相手に頼ることになりました。文章の準備もそうですが、基礎的な英語能力を鍛えないとダメだなと思いました。

三上 最終日に、何人かで札幌に行くことになったのですが、苫小牧って結構大きな駅なので、札幌まで行く列車は結構あるだろうと高を括っていたんですが、苫小牧は都会ではありませんでした。田舎でした。意気揚々とホテルを出たものの、しばらく途方に暮れて、結局「よいとまけ」を食べながら時間を潰しました。その後、札幌に着いたら暗くなっていたので、結構急ぎ足な観光になってしまいました。電車の時間は調べないという反省ですね。

五十嵐 他の高専の人とも喋れてすごく良かったんですが、あまり日本人が多い環境に甘えないで、他の国の人とも積極的に話すべきだったかなと思っています。

荒木 タイの仲良くなった人から無地の銀紙に包まれたガムを渡されて、味も聞かずに食べたらずごく強烈なハーブでした。毎回呼吸するたびにハーブが鼻からつき抜けていくような凄まじいものでした。今後は海外の人から渡されるものは味を聞いておこうと思いました(笑)。

三上 せっかく参加しているのだから、プログラム以外の時間に、日本人だけでなく海外の人に話に行ったり、夜ご飯と一緒に食べに行ったり、もっとよく積極的にコミュニケーションを取ればよかったなと思いました。あと、なるべく英語で話すという努力をした方がいいなと思いました。

⑤その他

有馬 Global Campが終わった後の学習で、何か続けたりしていることはありますか? 自分で英語を勉強したり、英語圏の文化に自ら触れてみようみたいなことだったり。もしくは普段の英語の授業を去年とは違った態度で受けているとか。そういった英語に対する向き合い方で、変わったところはありませんか?

庄司 学校の国際交流以外でも、イングリッシュカフェという、他団体が札幌で開催しているイベントに参加しました。他の国の文化だったりを学ぶイベントで、この前はカナダについて学びました。

五十嵐 そんなに英語が苦手な意識は今までなかったんですけど、いざ話してみると全然できてなくて。文法とかもそうですし、単語力が圧倒的に無いなと思いました。あと、最近英検とかTOEICの勉強とかを始めて、リスニングが思ったより

り話すスピードが早くて分からなかったのでも、YouTubeで動画見てみるとか、洋楽聞いたりとか、最近意識的にしています。ちょっとですけど。

荒木 YouTubeで海外のゲーム実況をちょっと見るようになって、内容は何を言っているかわからないことが多いですが、それでも頑張っ聞いてます。

三上 以前タイへ留学に参加した時にも感じたことなんですけど、なまりが強い人って結構いて、その対応って綺麗な英語だけ聞いてもあまり身につかないと思います。なので、インド圏の人の動画とか見ると、なまりが強い中で何を言っているか推測する能力がつかえます。

藤松 インスタで、もう一つアカウントを作って、英語に関するアカウントをフォローして、英語にたくさん触れる機会を作っています。また、一年生からの英語の授業でのリスニングはとても聞きやすくなり、授業に参加するのがとても楽しくなっている感じがしています。

座談会についてのコメント

《フェルナンド先生》

Global Campは1週間という短い期間でしたが、参加全員にとって忘れられない思い出となったに間違いありません。参加者たちは、英語力の向上や留学生との交流など、さまざまな目的を持ってキャンプに参加しました。そして、学生たちのGlobal Campへ参加前と参加後の成長がはっきりと見られたことが、この事業の一つの貴重な成果であったと思います。授業では、文法などを学びながら、英語で自国の文化について説明などをして母語の異なった人との交流を行っていました。母語が異なると英語での発音にもクセが出るため聞き取ることに苦労しているようでした。これからは海外との交流する機会が増えるでしょう。英語で共通で会話するだけでなく、お互いの背景なども考えるよい体験になったかと思っています。

《上場先生》

今回のKOSEN Global Campではタイ、モンゴル、日本の高専生が集まってバスタブリッジの作成やオリジナル著作、スマートフォンの製造会社の経営をシミュレーションする実習などを行いました。慣れない英語での交流でしたが、みんな積極的にコミュニケーションをとりながら協力して課題に取り組み、交流を深めていました。これから多岐様な活動に参加し異文化交流を経験して、将来に活かして欲しいと思います。

《有馬先生》

まず、参加した学生の皆さんが積極的に異文化交流を楽しんでいる様子が伝わり、大変嬉しく思いました。交流の過程で多少の失敗や後悔もあったようですが、それらを前向きに捉えている姿勢が素晴らしいです。今回の経験を通じて、国際交流への意欲が高まった方、英語学習への取り組みを一層深めている方、またSNS等を活用して継続的に交流を続けている方など、それぞれが将来につながる貴重で有意義な経験をされたことと思います。皆さんのさらなる成長を楽しみにしています。

令和6年度本科卒業生及び専攻科修了者の進路状況

令和6年度卒業生進路状況						
系	機械系	都市・環境系	応用化学・生物系	電気電子系	情報科学・工学系	合計
求人社社数	570	389	372	573	521	2,425
卒業生数	男 33	33	32	21	33	152
	女 7	9	9	2	3	30
進学者数	男 12	9	14	7	11	53
	女 1	2	4	0	0	7
企業等	男 20	23	18	14	22	97
	女 6	7	5	2	3	23
公務員	男 0	1	0	0	0	1
	女 0	0	0	0	0	0
進学先	室蘭工業大学(3) 筑波大学 千葉大学 福井大学 長岡技術科学大学(2) 豊橋技術科学大学(2) 工学院大学 苫小牧高専専攻科(2)	北海道大学(2) 室蘭工業大学 豊橋技術科学大学(2) 長岡技術科学大学(3) 苫小牧高専専攻科(3)	北海道大学(2) 室蘭工業大学(5) 東京農工大学 豊橋技術科学大学(3) 東京理科大学 日本航空大学校 苫小牧高専専攻科(5)	長岡技術科学大学 名古屋工業大学 苫小牧高専専攻科(5)	長岡技術科学大学(2) 豊橋技術科学大学(3) 苫小牧高専専攻科(6)	
就職先	(株)アイ・エス・ビー アズビル(株)(2) e.TEAM ANA いすゞエンジン製造北海道(株) (株)京都製作所 キリンビール(株)北海道千歳工場 (株)小松製作所 サントリープロダクツ(株) JFEテクノス(株) ジョンソンコントロールズ(株) 新日本空調(株) ソニーGM&O(株) (株)タマディック ナブコシステム(株) (株)日産オートモティブテクノロジー 日本精工(株) (株)ネオジャパン パナソニック(株) パナソニックE&C(株) (株)日立ビルシステム ファナック(株) フジテック(株) 富士フイルムビジネスソリューションズ(株) 三菱地所コミュニティ(株) 三菱電機ビルソリューションズ(株)	(株)IHインフラ建設 アルファ計画(株) 伊藤組土建(株) 岩田地崎建設(株) エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株) (株)大林組 鹿島建設(株) 極東興和(株) KDDIエンジニアリング(株) (株)構研エンジニアリング サンコーコンサルタント(株) JFEテクノス(株) 清水建設(株) ジョンソンコントロールズ(株) (株)砂子組 大日本土木(株) 東京水道(株) 苫小牧港開発(株) 苫小牧港管理組合 (株)巴コーポレーション (株)中山組 西松建設(株) (株)NIPPO 日本高圧コンクリート(株) パシコン技術管理(株) バブリックコンサルタント(株) 北海道電力(株) 北海道旅客鉄道(株) 本田技研工業(株) 三井住友建設(株) レイズネクスト(株)	出光興産(株) 王子製紙(株)苫小牧工場 (株)大塚製薬工場 サントリースピリッツ(株)(3) 三洋化成工業(株) スマートホールディングス(株) 第一三共ケミ・プロ 第一三共バイオテック(株) 大日精化工業(株) DIC(株) 日東電工(株) 日本ゼオン(株) 日本クロージャー(株) (一社)日本血液製剤機構(4) 丸善石油化学(株) メビウスパッケージング(株) 野外科学(株) レゾナック(株)	アズビル(株) ウェルネット(株) 王子エンジニアリング(株) 関西電力(株) (株)札幌科工 シンセメック(株) 中部電力(株) 電源開発(株) 東京水道(株) 浜松ホトニクス(株) 非破壊検査(株) 北海電気工事(株) 北海道ガス(株) 北海道電力ネットワーク(株) 三菱電機ビルソリューションズ(株) メビウスパッケージング(株)	アマゾンジャパン(合) 池上通信機(株) (株)ヴィッツ ウェルネット(株) エヌ・ティ・ティ・データ・ソフィア(株) (株)FJコンボジット キャンシステムアンドサポート(株) キャンメディカルシステムズ(株) (株)スリーエス 第一三共プロファーマ(株) フジテック(株) (株)DNP情報システム (株)DNPデジタルソリューションズ(2) (株)ディーディーエル (株)ハイマックス(2) 浜松ホトニクス(株) (株)日立ハイシステム21 (株)福井村田製作所 富士フイルムビジネスソリューションズ(株) ほくでん情報テクノロジー(株)(2) (株)ラック (株)RayArc	

令和6年度卒業生進路状況	
系	創造工学専攻
求人社社数	745
卒業生数	男 27
	女 5
進学者数	男 10
	女 1
企業等	男 17
	女 4
公務員	男 0
	女 0
進学先	北海道大学大学院(8) 岩手大学大学院 長岡技術科学大学大学院 香川大学大学院
就職先	ENEOS(株) アイリスオーヤマ(株) アクセンチュア(株) ニチレキ(株) 長谷川体育施設(株) 浜理PFST(株) (株)NICHUO (株)カネカ (株)シーズ・ラボ (株)タナカコンサルタント (株)日立ハイテクフィールドイング (株)日立パワーソリューションズ 日本軽金属(株) 北都システム(株) 矢崎総業(株)

令和6年度本科卒業生及び専攻科修了生の進路状況について

令和6年度キャリア教育センター長 八田茂実

コロナウイルスから回復してから、本科生対象の求人社社数は増加に転じており、今年度もその傾向は続いております（最近5年間では2024年度は2,425社、2023年度は2,382社、2022年度は2,348社、2021年度は2,689社、2020年度は3,160社）。また専攻科生の求人社社数も確実に増加しています（2024年度は745社、2023年度は528社、2022年度は522社、2021年度は1,084社、2020年度は1,303社）。また、本科生182名の卒業生の進路は、36名が道内就職、85名が道外就職、60名が進学する結果となりました。

慢性的な人手不足の中、企業は人材確保のための待遇改善や業務効率化に取り組んでいます。しかし、その一方では事業再編のために希望退職を募る報道なども見られます。さらに、AI技術の急速な発達によって、社会が大きく変革しようとしており、従来の仕事のあり方や求められるスキルも変化しています。このような中で、自らが学び続ける力など社会の変化に対応できる基礎力を身につけることが重要です。いくつになっても常に自分自身のキャリア・デザインができるような素地をこの高専の在学中に作ることが不可欠と考えております。このようなことを踏まえ、本校では、キャリア講話や創造工学、ホームルームを通して、コミュニケーション力、多様な価値観への理解、将来の先見性、自分自身の理解など、社会で必要な力を持ってもらえるように、「組織的」「系統的」なキャリア教育の一層の推進に取り組んでまいります。

2025年度も引き続き苫小牧高専同窓会である「樽前会」、苫小牧高専を支援してくださる地元を中心とした企業の集まりである「協力会」と連携しながらキャリア教育に力を入れていきます。今後起こり得る社会の変化に対しても、苫小牧高専の卒業生が引き続き社会で活躍できるよう、我々もより一層の努力をする所存です。

「第4回チャレンジ!フードロス削減アイデアコンテスト」にて、本校学生2名が最高賞の「北海道知事賞」を獲得しました

3月13日(木)開催の「フードロス削減コンソーシアム第5回フォーラム」にて「第4回チャレンジ!フードロス削減アイデアコンテスト」の表彰式が実施され、本校応用化学・生物系2年生の羽鳥文賀さんと沼田結歌さんが最高賞の「北海道知事賞」を受賞しました。

今回で第4回目となる「チャレンジ!フードロス削減アイデアコンテスト」では、北海道大学が開発した青果の鮮度保持技術「プラチナ触媒」を活用したフードロス削減に資する実証アイデア部門と、フードロス削減につながるこれまでにない独創的な実証アイデア部門の2部門制でコンテストが行われ、本校学生2名は「ミニチュア倉庫を用いた階をまたいだ白金触媒の効果の検証」に関する企画をコンテストに応募し、コンテストの最高賞である「北海道知事賞」を受賞しました。

本アイデアはプラチナ触媒を倉庫等で実装するための予備検討として、アクリルボックスを倉庫に見立てて触媒の配置場所や量、気流の有無が青果物の保存に与える影響について検討したものです。審査委員の方々からは「審査委員の予想を大きく裏切る興味深い結果であった。」と高い評価を得ることができました。

今回のコンテストへの参加は、学生自身の自主的な探究活動の一環でしたが、今回の経験が学生の今後の学業、研究等への更なる意欲に繋がればと思います。



フロンティアコース4年生がビジネスプランコンテストで「優秀賞」を受賞しました

2月22日(土)に開催された第5回学生ビジネスプランコンテストで、本校フロンティアコース4年生の本多末宙さん(電気電子系)、齋藤涼音さん(都市・環境系)、中谷篤拓さん(都市・環境系)、松原幸也さん(情報科学・工学系)のチームが「黑板革命(ブラックボードレヴォリューション)」というタイトルで発表を行い「優秀賞」を受賞しました。



人事異動

○令和7年3月31日付

教育職員

【定年退職】

校長	小林 幸徳
創造工学科教授(機械系担当)	菊田 和重
創造工学科教授(応用化学・生物系担当)	平野 博人
創造工学科教授(総合人文科学系担当)	山際 明利

【雇用期間の満了】

創造工学科特任教授(機械系担当)	當摩 栄路
創造工学科特任教授(応用化学・生物系担当)	古崎 毅

事務職員・技術職員

【辞職】

総務課施設管理係長 土門 智広

【配置換】

事務部長 高見 守亮

(函館工業高等専門学校事務部長)

学生課長 石井 孝宏

(旭川工業高等専門学校学生課長)

総務課企画調査係 箭子 涼太

(本部事務局研究推進課研究推進係)

【雇用期間の満了】

特命教授(菊田教授研究室)	岡田 昌樹
総務課施設管理係臨時用務員	今野 進
学生課学生係事務補佐員	萩尾ひとみ
学生課学生係非常勤看護師	田中 理早
学生課図書係事務補佐員	太田 浩輔
学生課図書係事務補佐員	田邊 蒼真
学生課寮務係学生寮指導員	栗山 昌樹

【併任の解除】

総務課長

高見 守亮

(事務部長)

石井 孝宏

(学生課長)

学生課寮務係長

○令和7年4月1日付教育職員

【採用】

校長	長野 克則
	(北海道大学大学院工学研究院教授)

【昇任】

創造工学科教授(機械系担当)	高澤 幸治
創造工学科教授(都市・環境系担当)	鳥田 宏行
創造工学科教授(総合自然科学系担当)	金子 友海
創造工学科准教授(都市・環境系担当)	谷口 陽子
創造工学科准教授(応用化学・生物系担当)	長尾 昌紀

【再雇用】

創造工学科特任教授(機械系担当)	菊田 和重
創造工学科特任教授(応用化学・生物系担当)	平野 博人
創造工学科特任教授(総合人文科学系担当)	山際 明利

事務職員・技術職員

【採用】

事務部長	南 健一
	(アイヌ民族文化財団民族共生象徴空間運営本部国立アイヌ民族博物館副館長)
総務課長	佐藤 哲也
	(北海道大学国際部国際企画課長)

総務課施設管理係	金山 弥旦
	(北海道大学施設部環境配慮促進課(環境マネジメント担当))

学生課教務係	新井山 梨恵
総務課施設管理係臨時用務員	吉川 政司

学生課学生係事務補佐員	山根 真妃
-------------	-------

学生課図書係事務補佐員

学生課図書係事務補佐員

学生課寮務係学生寮指導員

特命教授

【配置換】

学生課長

鳥井 幸汰

中嶋 一心

清水 祐一

當摩 栄路

渡邊 秀雄

(函館工業高等専門学校総務課長)

総務課企画調査係

服部 弘明

(学生課教務係)

総務課調達係

坂本 ありす

(学生課学生係)

学生課教務係

太田 諒

(旭川工業高等専門学校学生課教務係)

学生課学生係事務補佐員

齊藤 陽子

(学生課教務係事務補佐員)

【再雇用更新】

技術教育支援センター嘱託職員

蘇武 栄治

【併任】

総務課施設管理係長

小笠原 智紀

(総務課課長補佐(財務担当))

学生課寮務係長

岡本 明彦

(学生課課長補佐)



高専通信



VOL.168 CONTENTS	
1	新入生へ贈る言葉
2	在校生からのメッセージ 第1学年担任からのメッセージ
3	各副校長ご挨拶
4	学校長挨拶
5	新留学生紹介 学生会
6	教育理念・学習目標等 学生課よりお知らせ
7	卒業生へ贈る言葉
8	卒業生父母からの言葉 卒業式写真
9	卒業生・修了生からの言葉
10	学会賞・高専賞受賞者一覧 退職教員からのご挨拶
11	KOSEN Global Camp座談会
12	
13	進路状況
14	TOPICS 人事異動

編集後記

今年も苫小牧の桜は、ゴールデンウィーク前に早々と開花しました。しかし、その後は一転して肌寒い日が続き、5月下旬になってようやく本格的な春を感じるようになりました。

今回の『高専通信』第168号では、令和6年度末から新年度にかけての学校の動きをお届けいたします。

3月の卒業式では、苫小牧市民会館において182名の本科生と32名の専攻科生が学び舎を巣立っていきました。そして4月には、216名の新1年生をはじめ、3名の留学生、22名の専攻科生を迎える入学式を本校第2体育館で開催いたしました。新入生の皆さんの緊張した面持ちが印象的でしたが、これからの学校生活への期待も感じられました。

学校生活といえば、コロナ禍で中断されていた学生会行事なども、昨年度までに通常通り実施されるようになりました。また、今回ご紹介いたします「KOSEN Global Camp」のように、国際的な視野を広げる取り組みも積極的に進めております。こうした学校の様子を、年3回発行するこの『高専通信』で読者の皆様にお伝えしてまいります。

なお、最新の情報は学校ホームページでも随時更新しておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

総務主事 八田茂実

〔高専通信に関するお問い合わせ先〕

苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係 〒059-1275 苫小牧市字錦岡443
TEL.0144-67-0213 [MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

